

2023 年度通期決算説明会 主な質疑応答

広報・IR部

【全体】

Q：2024 年度業績予想におけるアップサイドポテンシャルとダウンサイドリスクがあれば教えて欲しい。

A：需要が好調なオートモーティブ、半導体関連製品、パフォーマンスケミカルズはアップサイドポテンシャルがある。一方、海外グローバルアルカリについては塩ビ及び苛性ソーダの市況低迷が続いた場合、ディスプレイについては想定以上の円安水準や低調な需要が続いた場合、ダウンサイドとなる。

Q：戦略事業とコア事業に分けた 2024 年度の見通しがプレゼン資料に無いのは、新中期経営計画を踏まえ、区分を変更するためか？

A：新中計発表にて説明させていただく予定。

Q：今期の営業利益計画 1500 億円は、保守的な目線か、或いは、ある程度リスクを織り込んだ上での現実的な数字か？ 上期と下期で数字に段差があるが、これは季節性なのか、或いは、ある程度の期待感が織り込まれているのか？

A：今期業績見通しは必ずしも保守的とは言えない。アップサイド、ダウンサイド両方ある中で現実的な数値と考えている。2024 年度は下期が上期に対して 300 億円利益増と見ている。通常は下期の方が上期に対して 150 億円程度の利益増となることから、通常よりは上期、下期での差が大きい。2024 年度は、市況回復も若干あるが、ディスプレイ、バイオ医薬品 CDMO といった課題事業の収益回復が下期に発現することを見込んでいる。

Q：2024 年度上期、下期でのセグメント別の営業利益見通しは？

A：セグメント別に上期、下期に分けては開示していない。建築ガラスは通常上期、下期で差はない。オートは通常、3 月に出荷が伸びるので、上期の方が強い。電子はディスプレイ、電子部材ともに下期型。化学品のうち、エッセシャルケミカルズは通常季節性はなく、パフォーマンスケミカルズは下期型。ライフサイエンスのうち、合成医農薬 CDMO は下期型の傾向がある。

Q：配当方針の変更は定量的で分かりやすい。一方、自社株買いの方針は、どの変化するか？ 従来よりも積極化、慎重化、或いは、大きく変わらない、などあるか？

A：従来通り。その時々で判断する。

【建築ガラスセグメント】

Q：2024 年度に建築ガラスで減益を見込んでいるが、その内訳は？

A：欧州が景気減速の影響を受け若干弱い、大きな懸念点はなく、2023 年度とそう変わるとは見ていない。

【電子セグメント】

Q：EUV マスクブランクスについてだが、インテルは今年、データセンター向け CPU 2 製品（3nm）、1.8nm の PC 用 CPU の発売を予定しているほか、昨年末に高 NA EUV 露光装置の初号機を導入した。2024 年は EUV マスクブラ

ンクス需要が飛躍的に増えると思われるが、AGC の出荷はどの位の伸びが見込まれるか。

A : 半導体メモリ向けを含め、当初見ていたよりも市場は大きくなっている。2023 年度は前年比で売上が 1.5 倍になった。2024 年も同様のペースで売上が伸びると見ている。

Q : インテルは CPU 以外を TSMC に生産を委託している。この外部委託分に AGC の EUV マスクブランクスが使われているのか。

A : 当社の顧客基盤は確実に広がっている。具体的な内容については回答を控えさせていただく。

Q : 電子の 2024 年度のサブセグメント毎の営業利益の構成比イメージと前年比での営業利益率の強弱は？

A : ディ스플레이は、最悪期を脱して、価格・出荷が徐々に回復していく。電子部材は、半導体関連の需要がかなり強い年になると見ている。オプトエレクトロニクス用部材は、スマートフォン市場の伸びは以前ほど見込めないものの、堅調に推移すると見込んでいる。2024 年の営業利益の構成は、電子部材の利益が中心となる。

Q : ディ스플레이は赤字が継続していると思うので、黒字化に向けた道筋について解説が欲しい。2024 年度のどの辺りで黒字化していくのか？年末にどの位の営業利益率に達する前提か？

A : ディ스플레이は、足元の需要は弱く、急回復とはならない。元々、下期が強いので徐々に業績を改善していく。ディスプレイの目標は黒字化ではなく、ROCE10%。そこへ向けて構造改革や価格適正化を着実に進めていく。

Q : ディ스플레이の数量・価格の動向は？同業他社は、10-12 月期比で 1-3 月期の数量が一桁半ば%減少を前提しているようだが、AGC から見てどうか？また 4-6 月期以降、パネルメーカーの稼働率が戻るか否かについて、ビジビリティの感触は？価格は、同業他社は 2023 年後半に二桁%の値上げが通ったようだが、AGC も似たようなトレンドと考えて良いか。

A : 数量は、2023 年 4Q 比で 1Q は、ディスプレイ用ガラスの全需は微減のところ、当社の出荷は増加の見込み。2023 年の 3Q 後半にパネルメーカーが在庫調整をかなり行った。今年の上期に段階的に回復すると見ている。価格は、2023 年 3Q 比で 4Q は一桁%増だった。2Q 比では 4 Q 一桁後半%増となっており、他社と同じトレンドだった。同業他社との比較では、お客様の違いもある。

Q : EUV マスクブランクスについて、新規参入の脅威をどう評価しているか？AGC のシェアの拡大・後退の可能性はあるか？

A : 現時点で競争環境は激化していない。

【化学品セグメント】

Q : 化学品の 2024 年度の営業利益のサブセグメント毎の構成比イメージ教えて欲しい。エッセンシャルケミカルズのマージンが前年比でどう変化するか？パフォーマンスケミカルズは一部価格改訂も進めていると思うが、収益率改善が期待できそうか？

A : 2023 年度はエッセンシャルケミカルズ、パフォーマンスケミカルズの営業利益構成が 5 割、5 割となった。2024 年度はパフォーマンスケミカルズの割合が大きくなる。半導体向け、輸送機器向けで需要が強くなることで、アップサイドポテンシャルもある。収益率改善も期待している。

Q : クロールアルカリ市況の見通しについて教えて欲しい。2023 年は年間を通して停滞感が強かったが、AGC は 2025 年

から大幅な能力増強を控えており、需要が戻らない中で固定費が増えないか心配しているが、どうか？

A：2024年也是中国の景気低迷が続くため、東南アジアの市況が大きく改善するとは見ていない。タイでの新規ラインは2025年から動き出す。現在は、域内で作ったものは域内で売れるという状況は変わりなく、フル稼働となっており、10%近い利益が出ている。新規ラインが動き出すことで規模は大きくなるが、フル稼働が続くと見ており、現時点で心配していない。

Q：化学品の2024年度の営業利益は前年比で48億円減の600億円となっている。エッセンシャルケミカルズおよびパフォーマンスケミカルズ各々の利益増減のイメージは？

A：エッセンシャルケミカルズは海外クロールアルカリ市況の悪影響を受け減益、パフォーマンスケミカルズは増益に向かう。

【ライフサイエンスセグメント】

Q：ライフサイエンスの2024年度売上高は2023年4Qの4倍に相当しており、2023年度から成長がない前提と見える。新工場の貢献があり、バイオベンチャーの改善の兆しがあるなかで、保守的な見込みではないか？

A：2023年4Qはライフサイエンスのうち、合成医薬品CDMOの売上が季節性の影響から大きかった。バイオ医薬品CDMOは徐々に回復していくが、足元、ボルダーでの再稼働の目途が立ったところであり、バイオベンチャーの動きも強くないので、売上は保守的になっている。

Q：ボルダー新工場について。昨年末に立ち上げが正常化することだったが、その後の進捗は？フル稼働に向けて受注は取得済みであること、今年の年末頃にはフル稼働が目指せそうなこと、商業生産向けであることを改めて確認したい。ボルダー新工場はAGCのバイオ医薬品CDMOキャパシティの30%程度を占めているかと思うので、この工場が順調にフル稼働に向けて進捗することによる増収・増益効果はかなり大きいものと期待している。

A：予定通りの進捗だ。再稼働の目途は立った。これから本格的な生産に入り、年末にかけて稼働を上げていくが、2024年はフル生産の効果は期待できない。ボルダー新工場がフル生産になるのは2025年になる。

Q：バイオベンチャーの資金繰りの問題に関し、CDMO各社からは「需要は引き続き停滞しているものの、底打ち感が出てきている」との説明が目立つ。AGCはCDMO各社のコメントをどのように見ているのか？

A：各社が、2024年から徐々に回復すると見ているのは妥当だと思う。

Q：製薬メーカーの中にはアルツハイマー病治療薬の製造委託先を欧州で模索している会社もあるようなので、欧州を中心にCDMOのキャパシティがタイト化する可能性もありそうだ。欧州の拠点が充実しているAGCに与える影響について整理していただきたい。AGCが受託できる可能性や、域内のCDMOキャパシティがタイト化することによるプラス影響はどうか？

A：個別案件については、コメントは控えさせていただく。

Q：ライフサイエンスの2023年4Q売上高は3Q比で100億円伸びているのに対し、営業利益の改善は40億円弱であり、限界利益率の高さに鑑みると増益が物足りなく見える。固定費の増加が要因かもしれないが、3Qにも欧州・シートルでの修繕・改修の一過性のコストがあったはずなので違和感がある。詳細を聞きたい。

A：2023年4Qは決算の関係でいろいろな処理が入っており、また稼働の状況の変化もあり、単純な限界利益では説明が難しい。

以上